

## 新万能細胞、サルの治療で実験中...ハーバード大

(2014年1月30日 14時37分 読売新聞)

【ワシントン＝中島達雄】細胞に強い刺激を与えただけで作製できる新たな万能細胞「S T A P (スタッフ) 細胞」の開発に理化学研究所と共にかかわった米ハーバード大の研究チームが、脊髄損傷で下半身が不自由になったサルを治療する実験を進めていることを30日明らかにした。

研究チームの同大医学部・小島宏司医師によると、脊髄損傷で足や尾が動かなくなったサルの細胞を採取し、S T A P細胞を作製、これをサルの背中に移植したところ、サルが足や尾を動かせるようになったという。

現在、データを整理して学術論文にまとめている段階だという。研究チームは、人間の赤ちゃんの皮膚からS T A P細胞を作る実験にも着手。得られた細胞の能力はまだ確認中だが、形や色はマウスから得たS T A P細胞によく似ているという。